

令和2年度  
事業報告書

令和3年5月

## 目 次

1 課題解決に向けた取り組み	-----	P1
2 数値目標	-----	P6
3 利用実績	-----	P6
4 職員研修の参加状況	-----	P7

令和3年3月31日現在

1 課題解決に向けた取組

サービスの質の向上

通所介護事業

課題	ご利用者へ対し、不安のない介護と質の向上
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護技術苑内外研修への参加と実施</li> <li>・身体介護を伴う支援が難しい利用者を対象にした、介護技術の基本動作の共通認識を図るための苑内研修を実施する。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナ感染拡大防止の為、職員全体を対象とした研修は実施していない。身体介護の支援が難しい方については、その都度機能訓練士に介護技術の相談を行い、ミーティングや連絡シートで職員に伝達・共有を図った。</li> </ul>
課題	ご利用者（ご家族）が現行のサービスに満足をされているか
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年実施している利用者・ご家族満足度アンケートを実施する。（4月）</li> <li>・ご利用者へ直接アンケート調査を行う。（5月）</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者・家族への【満足度アンケート】は、11月に実施。アンケート結果は別紙の通り。</li> <li>・7月の第三者委員による聞き取り調査で、「昼食の量や形態について変更を希望する利用者が数名おられた」と報告があった。3月に追加で利用者へ【食事についてのアンケート】を実施し、アンケート結果は別紙のとおり。アンケート結果をもとに個々で相談、変更を行う。合わせて、今年度も【興味、関心シート】を実施し、利用者一人一人の希望を明確にした。希望を現実に近づけられるよう多職種で話し合いを持ち、支援した。</li> </ul>

利用者の安全保障

通所介護事業

課題	ヒヤリハットや事故に至るまでの危険予測やご利用者の状態把握が十分でない
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者の状態把握は日々変化するため、職員間での情報共有は積極的におこなってはいるが、職員個々の危険予測が違うため、ひやりはっとや事故の予測が十分におこなえていない時がある。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクマネジメント委員会で年一回危険予測トレーニングを実施し、リスクに気づくことを学んだ。今後もトレーニングを継続して実施する予定。</li> <li>・転倒やヒヤリハットなどは発生後速やかに職員に報告し情報共有を図るとともに、利用者が過ごす環境に危険な個所がないか年に数回、確認と検討を行った。</li> </ul>

福祉ニーズに即したサービスの提供

通所介護事業

課題	利用者家族との交流を持つことが少ない
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用の様子や施設の見学ができることをHPやイベント情報に載せる。</li> <li>・ちらし寿司、カレーライス作りなどイベント情報を紙面でお知らせし、参加のお誘いをして、ご利用者、職員、ご家族との交流の機会をもち、苑でどのような事を行っているか理解していただく機会を提供する。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デイサービスで過ごす利用者の様子や行事に参加されている姿を年4回の新聞やH・Pなどで情報発信している。家族のイベント参加については新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から呼びかけしていない。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、社協主催のサマーボランティア、福祉高校の職場実習は中止。市・県主催の学生職場体験は多数の学生の受け入れを行った。定期ボランティアは感染の状況をみながら慎重に受け入れを行ったが、活動満足度を上げるためにボランティアの存在は不可欠であり、感染の危険性が低くなれば継続して来てもらえるよう引き続きお願いしたい。今後もボランティアの募集を行い、他事業所の実施情報を収集しながら、ご利用者のニーズに対応できるよう活動していく。</li> </ul>

人材確保

通所介護事業

課題	慢性的な人材不足
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハローワーク、専門学校などの開く就職説明会などへ出席し七尾苑の魅力を伝え、人材確保につなげる。</li> <li>・高校や専門学校の実習、福祉体験、職場見学などの受け入れを積極的におこなう。</li> <li>・再雇用や定年制の見直しなど、働き続けられる職場となるよう規定や就業規則の見直しもおこなっていく。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、福祉高校の介護実習、サマーボランティアなどの受け入れは中止。</li> <li>・看護師、機能訓練士、介護士を各1名ずつ採用し、人材不足は解消され、以前よりは利用者にかかわる時間も増えたように思う。機能訓練士が雇用されたことで専門性が高まり、訓練の効果が目で見えて利用者や家族から大変喜ばれている。また、機能訓練士が在籍していることから、ケアマネより新規相談をいただくことが増えた。</li> <li>・定年制の見直しなど、規定の見直しを行った。</li> </ul>

**人材育成**

通所介護事業所

課題	新規採用者や新人職員の育成
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場にいる職員が指導職員不在時などには指導ができるようにする必要がある。そのため、新人指導マニュアルを作成し、指導職員以外であっても同じように指導ができるようにする。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新人指導マニュアルは現在の時点で未完成。令和2年度に採用された職員は、既存の資料を使いながら指導担当職員が1対1で指導し、従来通りの指導を行った。業務終わりに振り返りを行うことが疑問や不安な点などを減らし、育成効果を高めたと感じる。</li> </ul>

課題	専門性を高めていける人材づくり
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して各自が業務や自己啓発において目標を設定し、半期ごとに面接を行い進捗状況を確認しながら達成できるように取り組む。</li> <li>・キャリアパスに基づく研修を基本とし、その他研修、自己啓発研修などへの参加後には学んだことを職員間で共有できるようミーティングや苑内研修として実施する。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナ感染拡大防止の観点から中止になった研修も多く、キャリアパスに基づく研修への参加は計画どおり実施できなかった。その中でも参加できた研修については、報告書にて伝達研修を行った。</li> </ul>

**業務改善**

課題	長く働きやすい職場づくり
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革に沿って年休取得率を85%目標とし、積極的に年休取得ができるように職員へ周知する。</li> <li>・引き続き業務の見直しもおこない、仕事を分担していくことで事務処理の効率化と時間外勤務の削減をし、職員のワークライフバランスにつながるようにする。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年休取得率が低い職員には半期の時点で声掛けし、年休取得を促した。今後も計画的に年休が取得できるように働きかけをおこなっていく。</li> <li>・2名の職員が育休から復職し、新規採用者3名とで業務の分担を行い、個々の仕事の負担は軽減した。現在の職員数に整うまでは業務の片寄りがあったのと、送迎員不足をパート職員に補ってもらっていたため、時間外勤務の削減はできなかった。</li> </ul>

収支の安定化

課題	利用率の向上
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>通所介護事業においては担当者会議などで七尾苑の強みを宣伝し、新規のお願いをする。毎月居宅介護支援事業所への空き情報のお知らせ以外にも、ホームページへも空き情報の公開を行う。また居宅への毎月の報告時などでの情報交換、担当者会議時などで利用者獲得につながるようアピールしていく。</li> <li>機能訓練加算が確実に取得できるように専門職を安定的に配置できるようにする。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>回数増回や新規利用受け入れの依頼は担当者会議や電話連絡時に随時お願いしているが、引き続き七尾苑の強みをアピールして売り込んでいく。</li> <li>定員を10月から40名に増員し、機能訓練と運動器機能向上訓練の加算取得にあわせ機能訓練士が充実したことで、リハビリ目的の新規利用者が増加している。</li> <li>新規利用者の獲得と同じ、あるいは介護度の高い方の入所、入院、廃止、死亡者がそれより多く、実績で定員人数に満たない日が多い。</li> </ul>

2 数値目標

事業	目標値	実績	
通所介護事業	85.0%	86.8%	計画時点では目標値を超えることは多いが、都合や体調不良でキャンセルとなる場合が多かった。実績は目標値を超えることができたが、10月から定員を40名に増員したため目標値の再設定が必要だった。

3 利用実績

(1)通所介護事業・総合事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日	26	26	26	27	26	26	27	25	27	26	24	27	313
延定員	910	910	910	945	910	910	1080	1000	1080	1040	960	1080	10955
延実績	752	780	786	820	762	809	896	766	787	759	754	834	9505
要支援1	30	35	31	34	20	26	22	24	25	30	32	23	332
要支援2	58	59	61	64	52	62	63	57	59	55	58	56	704
要介護1	339	352	349	371	341	343	390	290	309	297	312	362	4055
要介護2	188	202	194	200	202	217	245	220	201	189	168	211	2437
要介護3	86	84	105	104	97	79	89	120	137	129	119	110	1259
要介護4	28	26	25	22	22	54	55	35	34	27	35	39	402
要介護5	23	22	21	25	28	28	32	20	22	32	30	33	316
加算の算定状況	入浴介助加算				個別機能訓練加算			個別機能訓練加算			認知症加算		
	サービス提供体制加算				処遇改善加算			運動機能向上加算(総合)					
平均利用者数	30.4人												
平均要介護度	1.7												
平均利用率	86.8%												

(3)生活支援ハウス

入居者の状況

月	月末在籍数	新規入所者数				退所者数					
		在宅から	病院から	施設から	計	在宅へ	長期入院	他施設へ	死亡	その他	計
4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	4	0	1	0	1	0	1	2	0	0	3
7	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	5	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
11	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	6	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
計	59	1	1	1	3	0	1	2	0	0	3

4 職員研修の参加状況

派遣研修・講習等

研修名称	開催年月	参加者数
新型コロナウイルス感染症勉強会	5月20日	1名
指導的職員研修	10月28日	1名
リスクマネジメント研修 一般コース	12月2日	1名
女性の活躍推進セミナー	12月8日	1名
社会福祉法人監査研修	12月18日	1名
人権・権利擁護研修	1月25日	2名
労働時間に関する法制度等説明会	2月12日	1名
キャリアパス制度運用研修	2月15日	1名
キャリアパス制度運用研修	2月16日	1名
社会福祉法人役員研修	3月2日	1名